令和 3 年度 8020 公募研究報告書抄録（採択番号：21-1-01）

研究課題: 歯科口腔外科医療従事者における SARS-CoV-2 抗体保有率の多施設疫学調査

研究者名：菅野 勇樹，古賀陽子 1，小林真左子 2，里見貴史 2，
所属：1. 東京女子医科大学　歯科口腔外科学講座　口腔顎顔面外科学分野
2. 日本歯科大学生命歯学部 口腔外科学講座

【背景・目的】2019 年 12 月，中国の武漢市において新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）を原因とした新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が報告され，世界中に急速に拡大し 2020 年 3 月には世界保健機関によってパンデミックとして認定された.

歯科・口腔外科領域はその感染リスクが高いといわれていることから，われわれの昨年度のワクチン接種前の SARS-CoV-2 抗原・抗体保有率調査に引き続き，ワクチン接種後の歯科口腔外科医療従事者の SARS-CoV-2 スパイクタンパク質（S タンパク）およびヌクレオカプシドタンパク質（N タンパク）抗体保有率を評価する．そして，歯科・口腔外科診療プロトコールを確立し，医療従事者と患者の両者が安心して治療を行える体制を構築することを目的とする.

【方法】東京女子医科大学（倫理審査承認 No,2020-0042）,および日本歯科大学(倫理審査承認 No,NDUH-RINRI2020-17, No,NDU-T2020-44)の倫理委員会の承認後，2021 年 1 月に両大学の歯科口腔外科従事者（歯科医師，歯科衛生士，看護師，歯科技工士，医療事務員）に同意説明文書を用いて説明し同意を得られた者（原則として 3 回目ワクチン接種前）を対象とした.

【結果・考察】本研究の全検体 59 例のうち，S-IgG 陽性検体は延べ 50 検体であり抗体保有率は 85%であった．59 例中 56 症例において，2 回目接種より 8 か月が経過しており，ワクチンによって獲得した抗体が経時的に消失してきていていることが示唆された．本調査においては，S-IgG 抗体価 10SU/ml を抗体陰性と判定したが，陰性化のリスク因子が年齢（本研究では 32 歳以上）であることが，単変量解析および多変量解析にもおいても示された.

この 1 年間において新規に N-IgG 陽性となった歯科口腔外科医療従事者は認めなかった．すなわち，この 1 年間は両大学とも新たな感染者はいなかったといえる．東京都の累計感染者数が 2022 年 5 月現在約 150 万人（/1396 万人=11%）であるのに対して，本研究では累積感染者数は 4 人（/59 人=6.8%）であった．このことは，特にリスクが高いといわれている歯科口腔外科治療において，両施設の感染対策が適切であったことを示唆している．また，各職員個人個人の日常の行動も，一般の人々と比較して適切であったといえる．現在までと同様の診療体制を今後も同様に継続することで安心した医療が患者に提供できると考えられた．また，ことことを広く国民に周知することにより，いわゆる“受診控え”によって患者自身の判断で治療を中断し症状が悪化し，歯科口腔保健の機会損失によって全身の健康が損なわれることの内容に歯科会からも発信していくことが重要であると考えられた.